

審判員派遣報告書

1	事業名	ウインターカップ2019	2	日程	2019年12月23・24日
3	報告者	長谷川 悠貴	4	派遣先	武蔵野の森総合スポーツアリーナ エスフォルタアリーナ八王子

5 大会概要 および 大会結果			
大会名称	ウインターカップ2019	大会期間	2019/12/23・24
大会内容	男女各60チームが参加する、高校の全国大会としては最大規模の大会。		

6 担当したGame					
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲーム 雑 感
1	12月23日	(女子) 開志国際 vs 松江商業	U1	CC 七種 氏(徳島) U2 坂 氏(茨城)	オールコートプレスから走るバスケットを展開した開志国際が終始ペースを握る試合であった。
2	12月24日	(男子) 福井商業 vs 能代工業	U1	CC 植田 氏(福島) U2 山崎 氏(東京)	序盤は拮抗したゲーム展開となったが、パワーと高さで優位に立った能代工業が徐々にリードを広げていくゲーム展開となった。

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関すること、全体の感想および提言等
<p>(女子)開志国際 vs 松江商業 主任:岩井 遥河 氏</p> <p>●マジックタイム、タイムマネジメント マジックタイムを確認しながら、ゲームを運営していく必要がある。ケースとしては、ショットクロック2秒からインバウンズのプレイでショットクロックバイオレーションが成立したが、ゲームクロックは5秒近く流れていたということがあった。時間も長くは難しくもないので誰かが確認できればよかった。ショットクロックが5秒を切っているときやフリースローの後などショットクロックのバイオレーションが成立しそうなケースではより注意して確認をしたいと思う。</p> <p>また、EOQに8秒バイオレーションをコールしたケースもあったが、自分自身の中では確証が少ないままコールをしてしまった。何秒からプレーが始まったかをより正確に確認できるようにしておかなくてはならないと感じた。</p> <p>●リードでの動き ストロングサイドでのベースライン側のドライブをCにヘルプしてもらったケースがあった。ミーティングでは、TもLも触れ合いが確認できていなかった。自分はLであったが、クロスステップや少しアングルを変えるなどして、接触が確認できるように位置取りの工夫をしなくてはならない。正解はないと思うが同じようなケースで試行錯誤をして、動きを身に付けていきたい。</p> <p>(男子)福井商業 vs 能代工業 主任:山口 堯彰 氏</p> <p>●プライマリ リバウンドのファウルやローテーション中のコールなど自分のプライマリではないところで笛を挟んでしまうケースがいくつかあった。判定をしなくてはいけないという意識が強く出てしまって、そうした結果になったと思っている。クルーの見ているプレイを考えて自分の視野や位置取りを行っていきたい。</p> <p>●ダブルコール ダブルコールになるケースが多く、ファウルしたプレイヤーの番号が飛んでしまうこともあった。普段とは違って、クルーからも鳴ってくるということを十分に想定しておかなくてはならない。その中で、テーブルテイクが誰かとか、再開方法の確認とか次のことが考えられるようにしなくてはならない。</p> <p>●ゲーム全体 前日と違い、選手も大きく見えない部分が多いと強く感じるゲームであった。クルーで協力して誰かがアングルをとれるように、ベシクなメカをより徹底することがやはり重要であると感じるゲームだった。見えないものが多い中で不安感も強く、常にノイズが入っているような状態でゲームが進行していたように思う。このようなゲームでも平常心で審判ができるように精進していかなくてはならないと感じた。</p> <p>●最後に 今回の派遣に際しまして、様々な方のご協力をいただきありがとうございました。他県の上級レフェリーの方とご一緒させていただく中で、自分自身の持っている情報を正しく表現することが非常に重要だと思えるようになりましたが、自分自身にはまだまだ足りない部分だと感じています。今後もこの経験を活かして成長していきます。ありがとうございました。</p>	

審判員県外派遣報告書

1	講習会名 (大会名)	第72回全国高等学校バスケットボール選手権大会		
2	報告者	三谷 修司	所属連盟	U-15
3	期 日	令和元年12月25日(水)		
4	講 師	関東上級審判員		
5	参加者	各県派遣		

6	担当したGame				
No	期日	対戦カード	R/U	相手審判	ゲ ー ム 雑 感
1	12月25日	長崎西-北陸	CC	CC: 境氏 U2: 笠島氏	序盤は長崎西のスピードとフィジカルの強さが目立ち、リードする展開となった。北陸の3pが決まりだし一進一退のゲームとなり、82-79で北陸の勝利。
2					
3					

7	審判会議・ミーティング内容、審判技術・判定基準等に関する事、全体の感想および提言等
<p>◎ゲーム全体を通して 北陸の留学生を長崎西がどう守るかというところが、大きなポイントであった。頑張って守ろうとするDFが正しく守れているのかの見極めをはっきりするべきであった。そこがクリーンになれば、留学生の精神状態ももう少し安定したように思う。</p> <p>メカ的にはマンツーマンDF、ゾーンDFがチームの中でも変化が多かったので、情報を共有して対応することが大切であった。ゾーンDFのときでももう少しシンプルにローテーションを起こしてもよかった時があったように思う。</p> <p>◎主任からのミーティング プレイコーリングについては、大きく問題はなかったと思うが、誰のプライマリーで誰がコールに行くのかというところは、映像を見直して各自で分析をするべきである。前半は、確実に判定ができていたが、後半になって、ふかなくてもよかったのではというところがいくつかあったので、これも映像で確認。</p> <p>個人的には、留学生の精神状態が乱れかけたときに、ベンチとコミュニケーションをとってもよかったのではないかと。地元での活動の仕方は間違っていないので、これからも上級審判員として、高いレベルのゲームが担当できるようにしっかりと準備をするようにという話をもらった。</p> <p>今回のいい経験をさせてもらったことに感謝し、県内に貢献できるようにこれからも活動をしていきたいと改めて思うことができました。ありがとうございました。</p>	